



おばあちゃんのおかゆ

高崎市立東小学校 3年

河野 莉子

「うわ、何これ。おいしくない。」

わたしはごはんが大すきで、いつもおかわりをしています。でもその時は、ひどいかぜをひいていました。それなので、お母さんがせっかく作ってくれたおかゆを食べることができなかつたのです。いつもおいしいごはんがこんな味がしないなんてびっくりしました。お父さんとお母さんは、心ぱいそうな顔をしています。それを見てわたしは、

「わたしの体どうなっちゃったの。」

と思いました。

次の日、少し体調がよくなってきました。またお母さんがおかゆを作ってくれました。そこには、わたしのすきなやきザケが入っていました。今日は、

「おいしそうだな。」

と思いました。食べてみると、きのうとちがっておいしく感じました。ぜんぶ食べることができて、ほっとしました。次の日は、小さいおにぎりを作ってくれました。そのおかげで、わたしは少しずつ元気になりました。

数日後、おばあちゃんにこの時の話をしました。おばあちゃんは、

「りこちゃんのお母さんも、小さいころかぜをひくと、サケのおかゆを食べていたんだよ。やっぱりお米が一番だからね。」

と言いました。わたしは、

「そうだったんだ。」

と思いました。小さいころのお母さんと、同じ物を食べていたんだと知ってうれしくなりました。あのおかゆには、おばあちゃんとお母さんの二人分の気もちが入っていたんだなと思いました。

そして、ごはんをおいしく食べるには、けんこうでいることが大切なんだと気づきました。今度はわたしが、家ぞくにおかゆを作ってあげたいなと思いました。